

社員紹介コーナー

〔 今月号でご紹介する社員は、尾下泰治です。 〕

入社16年目です。このごろ老眼で、近くが見えづらくなってきて、年をとったと実感していますが、今以上に皆様のお役に立てるよう、努力していきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。



社員よりのコメント

永田晴：私が入社してからずっとお世話になっている課長です。社内の誰からも好かれています。席が隣でいつも困っているときに助けてくれるとても頼りになる人です。

瀬川：忙しいときでも、わからない事を聞きに行くと面倒がらずに丁寧に教えてくださいます。すごく話し易いので、ついつい何でも話しをしてしまう、頼りになる課長です。でもメタボには、お互い注意しましょうね(^-^)

下岸：永田会計の中で勤続年数が長く、会計・税務の知識も豊富です。事務所ではたまに冗談を言ったりして気さくに声をかけてくれるのでとても親しみやすい方です。又、コンピューター面にも詳しく、当社のパソコンの管理を全てしていただいてとても助かっています。

ご案内

～セミナー開催のお知らせ～

日時：平成22年12月16日（木） 13：30～15：30

場所：永田会計ビル4F セミナー室

講師：永田 吉郎

内容： 不況に対処する経営改善手法
& 不況期の税務調査対応



〔 セミナーの詳細・申込要項等詳細は、11月6日（月）送信予定の「セミナーのご案内」にて、ご案内します。 〕

仕事の効率化（ミス・ロス時間） ～患者様に選ばれる病医院を目指して～

現在、どの業種・企業においても、仕事の生産性ということが注目されています。『生産性』とは、投入（インプット）における産出（アウトプット）を指します。もっと具体的にお伝えするならば、働く時間において、如何に効率良く成果を出すかということです。

皆様は、常日頃時間を意識しながら効率良く仕事をしているでしょうか。

日常業務のミス・ロスが非効率に繋がるわけですが、実際にどのような仕事の仕方や行動がミスやロスというものなのかに気付かなくては、改善することができません。

例を基に、考えてみましょう。



～看護スタッフAさんの場合～

看護スタッフAさんは、患者様への親しみのある声かけが多い人です。ある日、患者様の腹部のレントゲン撮影する場面での会話です。

- ・「お名前をこの紙に書いてください」
「・・・えっと、紙をどこに置いたかしら？」
- ・「下着は、外さなくていいですよ」
「・・・ああ、やっぱり外してもらえますか？」
- ・「ちゃんと位置が合っていなかったの、もう一枚撮らせてもらえますか？」

一事が万事この調子で、患者様は困惑してしまいました。

看護スタッフAさんの院内での様子を見てみると、レントゲン室以外でも同じようなやり取りが続きます。

しかも、患者様との対応だけではなく、先生やスタッフとのやり取りも同様です。

これは、Aさんの行動パターンとなっているのでしょうか。

この押して引いてのパターンは非常に効率悪く、自分も周りも労力を使っている割には疲れてしまい、時間のロスということです。

この傾向を持っている人は、落ち着いて考え、行動し、一つひとつ確実に確認するクセをつけなくてはなりません。

院内で声を掛け合い、改善できると良いでしょう。